

夜間主	汉语
コース	中国語

【中国、日本、中国語】

中国は人口約 14 億人、国土面積は日本の約 25 倍をもつ隣国です。2010 年に GDP は世界第 2 位となり、圧倒的な経済規模を持つ超大国へと成長しました。そして日本にとって最大の貿易相手国でもあり、数多くの日本企業が中国に工場やオフィスを構えています。日本を訪れる外国人観光客を見ても、中国圏からの旅行者は半数以上を占めています。グローバル化が進み国境の壁が低くなるほど、距離の近さが強い影響力をもつようです。

世界地図を眺めてみればわかるように、中国の国域はヨーロッパに匹敵する広がりをもっています。こうした広大な地域において、膨大な人々の間で共通語として使われているのが、現代中国語です。この現代中国語は、学校教育で用いられ、テレビやビジネスなど公共の場で使われていますので、中国のみならず世界各国に暮らす華僑の間でも広く話されているわけです。

【中国語の学習について】

言語の面では、私たちが用いている漢字はごく一部の文字を除いて、すべて中国語より取り入れたものです。今では意識することさえないかもしれませんが、日本で用いている漢字・漢語の多くは、近代以前の文章語（漢文）に基づいています。一方、現在中国で日常的に話されている現代中国語は、近代以降に言文一致運動を経て生まれた、話し言葉が中心になっています。

中国で使用される漢字は簡略化された「簡体字」で、日本の漢字とは字体の異なるものがあります。たとえば「漢字」の「漢」は“汉”となります。とはいえ簡体字の多くは、字形の近さによって日本語から意味を推測することができますし、発音も日本語の音読みに近いものが少なくありません。ただし、中国語には漢字 1 字ごとに日本語にはないトーン（声調）があり、高低アクセントが付いているという特徴があります。声調は 4 種類あり、同じ音節であっても声調の種類が異なるだけで全く意味の異なる単語になりますから、発音の練習を十分におこなう必要はあります。

しかし中国語学習者にとっては幸運なことに、今の日

本はかつてないほど中国語の学習環境が整っています。今や中国系の人々を見かけない日の方が少ないほどですし、本校の留学生も半数以上が中国人です。観光地やアルバイト先、通学の電車で生の中国語を耳にすることも珍しくありません。好むと好まざるに関わらず、今や中国語は日本で使う必要性のきわめて高い言語であると言えるでしょう。



【授業の紹介】

本学の夜間主コースでは中国語 I を 1 クラス開講しています。中国語を履修することとなった学生の皆さんは、このクラスに所属して週 2 回の授業を受けることとなります。授業は中国人と日本人の教員が週 1 回ずつ担当します。ネイティブ教員の授業では耳と口を鍛えてコミュニケーション能力を高め、日本人教員は日本人学習者の苦手な点を適切に指導します。履修単位は前期と後期に分かれていますが、基本的に全員前期と同じクラスで履修してもらいます。ただし、前期の単位を取得できなかった場合は、他の外国語と同様に後期の履修は認められませんから注意してください。

次に、一般的な授業の内容について紹介しましょう。開講当初は各クラスとも発音の訓練を中心とした授業となります。発音練習の繰り返しは退屈に感じるかも知れませんが、中国語の学習は「発音に始まり発音に終わる」と言われています。特に最初から声調を正しく発音するのは難しいものですが、教員や CD の発音を聞き、口を大きく開けて何度も練習してください。そうすれば必ずきちんと通じる中国語を話せるようになるでしょう。発音ができるようになったら基本文型を学び、会話の練習を行ないます。中国語を用いた教員との応答練習はもちろん、学生同士のペアやグループで練習を行なうこともあります。

このように授業では学生の皆さんが練習することを重視

しますから、出来るだけ欠席しないようにしてください。そして積極的に教室で発音や会話の練習に取り組んでください。また、分からないことや疑問に思うことがあればどんどん質問してください。皆さんの能動的な学習意欲が、上達を早める原動力となるでしょう。

そして中国語Ⅰの履修を終えれば、昼間に開講されている中国語Ⅱを履修することが出来ます。中国語Ⅱでは、中国語Ⅰで習得した基礎をもとに、より実践的な会話力や読解力、聞き取りの能力の向上がはかられます。中国語の多様な表現や、中国語特有の考え方を学び、より深く中国を理解し、中国人と交流できるよう、学習の積み重ねが進められます。

そして皆さんは本学において中国語上級まで履修することが出来るわけですが、この中国語上級では、更に実践的で実用的な中国語能力の習得を目指しています。具体的には中国の人々との高度な会話能力の育成を目標に置き、教員と学生の皆さんとの交流をより密にして授業を進めています。この上級中国語で目指している能力を身に付ければ、中国に長期滞在して仕事や学問を進めていく道が開けることでしょう。

なお、本学は東北財経大学（大連）と蘭州大学（甘粛省）と提携を結んでおり、毎年留学生の派遣や交換を行なっています。また、台中科技大学（台湾）とも交流があります。皆さんには短期留学と長期留学の制度がありますから、日本の教室内で勉強するだけでなく、海外に飛び出して学生時代にしかできない体験に挑戦してみてください。初めに書いた通り、いま中国は日本に最も「近い」外国です。費用も安いですし、気軽においしいものが食べられます。現地で会話できるようがんばってください。

このほかに言語センターのマルチメディアライブラリには中国語語学図書（NHK 中国語講座、中国語検定対策ほか）とCD、中国映画・ドラマのDVDなども備えていますから、活用して楽しく勉強してください。

【中国語の使い方】

授業で中国語の学習を始めることができたなら、それを契機として中国語を様々な方法で活用してください。語学は、その言語を勉強することだけが目的ではありません。習得した語学力を駆使して、何かを実現することに意味があります。仕事に生かすにせよ、旅行をするにせよ、それ

ぞれ違った目標があるはずで。単位取得だけが目標の人には、授業は退屈な時間になることでしょう。より充実した時間になるよう、常に目的を考えながら勉強を進めて欲しいと思います。

前に述べたように、いまの日本は中国語との接点にあふれています。課外活動やアルバイトの時に、習った中国語で会話をする学生も今や少なくありません。

このほか、中国語履修者から志願を募り、地域貢献活動も行なっています。これまでに中国語で「小樽観光案内」を作ったり、小樽市立文学館や小樽総合博物館を中国語化するプロジェクトに取り組みました。今後とも教室で学んだ中国語を活用できるよう、教員や中国人留学生と一緒に楽しくチャレンジしてくれる人を待っています。

また、中国語圏では動画が積極的にインターネットで公開されており、映画・M T V はもちろんのこと、テレビになると録画のほかに、生放送でほとんどの番組を見ることができます。こうした絶好の環境を利用し、自分の興味のある分野を見つけて中国語を勉強してください。そして2年間取り組むことになる外国語を、将来に結びつけてもらいたいと思います。中国のことをすべて好きになれと言っているわけではありません。中国でも日本でも好きなどころ、嫌いなところがあって当たり前です。身近で文字が似ていても、考え方まで近いわけではありません。だからこそ中国語の学習を通じて、中国をより深く理解してもらいたいと思います。なぜなら各民族の考え方は言葉にこそよく表れているからです。



【江南貢院】中国南京市秦淮区の夫子廟地区にある建物。宋朝により建築された科挙の試験場で、最盛期には中国最大の科挙試験場となりました。大きな赤い提灯には、左から順に「探花」（成績三位）、「状元」（首席）、「榜眼」（成績二位）、と書いてあります。